

「現地を訪問して想うこと」

昭和 34 年 経済学部卒業 片山^{たかお}尚夫

東北大震災発生日はたまたまコーラスの練習日で翌日の演奏会をひかえ力を込め立ち姿で歌っていたので地震は全く体感できなかった。何が起きたのかも知らないまま仲間と何時も立寄る喫茶店で、翌日の演奏会のことなどを話し合っているうちに誰かから東北で大変な地震が発生したが詳細は不明らしいとの内容を聴き急いで帰宅した。途中気になり携帯で情報を探したが詳細な記事は未だなく、またバス停で乗客に聞いてみたが誰も事実を知らなかった。5時半頃に帰宅したであろうか。始めて大震災を知り、明日の演奏会の練習どころか、それらは頭の中より消え去りテレビに釘付けになったことを鮮明に記憶している。

応援ツアー参加の前知識では直接被害より風評被害はかなりあるとことを把握していたが、果して実態はどうであったのか、被害の影響はどの程度なのかも知りたいと思い参加した。学習会で福島県校友会の馬場孝蔵氏より「(2年10カ月経過した)現在、募金はもうエエー、来て飲んで食べてほしい」と訴えられ、発言の真意を理解するには若干手間取ったが私なりに被災者の方々の真意を理解した。資料・映像等による現地被害実態の報告やいまだに家族がバラバラに生活せざるを得ない実情等を学んだ。実体験者である現地の校友より詳細な被害内容を聞くにつれ疲れ居眠りをするような気持ちは全く持ち得なかったのは事実であり、参加者全員が熱心に聞き入った。震災・津波などとは無縁との思いから被害者を慮る気持ちが薄かったことは汗顔の至りに思えた。

寒い冷たい風が吹くなか、会津、活・活自然村で大釜で煮た郷土料理、初めて食した「こづゆ」を始め心あるお接待を頂き美味しくツアー参加の事実は永く記憶に残るに違いない。最後に応援ツアーの企画・運営を頂いた校友会本部、事務局の方々並びに現地で温かい心と親切なご支援を頂いた福島県校友会の桑原会長、馬場幹事長ほか一緒に参加された校友など、全ての関係者にこの場をお借りして心より感謝と敬意を表させていただきます。有難うございました。